

「旭川市江丹別若者の郷活性化協議会」会議録（平成27年度第2回）

- ◆日時 日時 平成27年10月16日（金）午後1時30分～午後4時00分
- ◆場所 旭川市江丹別若者の郷 若者センター 2階 研修室B
- ◆出席者 委員6名（50音順，敬称略）
坂下武，佐々木悟，中田浩康，
水澤拓二，横口三智夫（欠席：荒川求，鈴木瑠依，三上正）
事務局職員 3名
（農政部次長）加藤章広，（農政課長補佐）小浜洋人
（農政課農政係）保坂祥平
- ◆会議の公開・非公開の別 公開
- ◆傍聴者の数 0人（市民等 0人，報道機関0人）
- ◆会議資料
次第
資料 平成26年度旭川市江丹別若者の郷活性化協議会での主な協議事項

◆顛末

【開会】

開会し，佐々木座長からあいさつがあり，欠席委員の報告を行った後，会議に入った。

1. 江丹別若者の郷の活性化策について

（1）先進地視察等の結果について

主な発言は次のとおり

座長	先日，森林を活かした自然体験型集客メニューの先進地視察として，津別町を訪問し取組みの説明を受けるとともに，実際に森林セラピーを体験しました。先進地視察を終えて江丹別地区への導入可能性について皆様のご意見を伺いたい。私は，森林セラピーを体験して，我々が普段何気なく見ている草木には全て生命が宿っているということに改めて気づかされた。トドマツの倒木更新がまさにそうだが，樹木は死んでも新たな生命を育む。生命が循環していることを実感しました。一方で，江丹別にそのままのやり方で導入するのは難しいのではないかと感じました。
A委員	森林セラピー基地という形式では難しいと思いました。森林セラピーのマニュアルに沿ったものではなく，森の中で皆で楽しもうという形の方が良い。そういった意味では，盛り上げ方としては，江丹別の森などを案内する人づくりが大切なのかなという印象を受けました。
B委員	津別町の取組みをそのまま江丹別で実施するのは難しいのでは。NPO法人森林

	セラピーソサエティの認証取得もハードルが高く認証にこだわる必要はないのではないか。江丹別の地域で出来る事を考えて、出来る範囲で行った方が良いと思われる。森林散策であれば直ぐにでも取り組めるとは思います。
座長	専門家として、江丹別に導入できる可能性はありそうですか。
A委員	あると思います。例えば、森の案内人であれば誰、昆虫採集であれば誰、料理であれば誰というふうに、江丹別の人達が、主婦の方やお仕事をリタイアした方も含め空いた時間にガイドできるようなやり方で、地域の住民が担っていける範囲であれば。 7月に「とみはら自然の森」を実地調査した際に配布した資料には、森林セラピーという言葉は一切入れていません。実は2年ほど前から旭川医大の住友先生とともに、森林セラピーソサエティに申請して何かをするのではなく、別の「森林療法」という言葉で、血圧や唾液の検査はやるものの、それ以外にも森の中でヨガをする、森あそびをするといった緩やかなやり方で、森を活用して行く取組みを進めています。森林セラピー基地にこだわるのではなく、地元住民が人と交流でき、表舞台で活躍できるような方向で付加価値を付けていくことが出来れば良いのではないのでしょうか。
C委員	自分は参加することが出来なかったが、江丹別で実施する際に、先ずは何を目的にするかを明確にするべきだと思います。若者の郷に人が集まることを目指すのか、ビジネス化を目指すのか、それによって方向性は変わってきますよね。その上で、親子連れ向けか、市内向けか、市外客を対象とするのか、決めて行く必要があります。
D委員	森林浴やウォーキングを気軽に楽しみ、そこで何か付加価値を生み出していくことができればよいのではないですか。森林セラピーという形で大上段に構えなくてもよいのでは。また、対象の話についても、市外の人を呼び込むというより、先ずは今来てくれている人により満足していただけるような方向でよいのでは。
座長	しかし、地域を産業をとして発展させる方向でなければ、衰退の一途をたどることは目に見えているのではないのでしょうか。

(2) その他の集客策について

配付資料に基づき検討。

・主な発言は次のとおり。

座長	資料にあるとおり、今まで様々な案を頂きました。今年度の残りの期間で、中間報告の作成も見据えできるものについては試行していきたい。これからの時期を考えると、星の観察、樹液の採取、かんじきウオークなどがありますが、皆様のご意見を伺いたい。
B委員	星を見るのであれば、江丹別は2月の末から3月にかけては、雪があまり降らな

	いので、実施するのであればその時期が適しています。
C委員	かんじきウオークはいつでもできると思いますが、3月下旬頃になると、かんじきがいらなくらい硬雪になる。危険なのでガイドが必要です。
B委員	かんじきウオークの時にカエデの樹液採取をしても面白いですよ。スノーモービルは初心者に乗せると、スピードを出しすぎるので危険です。
D委員	動物園の裏の雪の村は整備されたコースでやっていますので、やるとすれば、そういうコースを作らなければならないですよ。
C委員	経験がありますが、起伏の激しい所では、やらないほうが無難です。曲がらないし、止まらない。ひっくり返ったら起きられないです。バナナボートに乗ってもらいスノーモービルで引っ張るといのもありますが、操縦が難しいです。
A委員	私もイベントでやっていますが、リミッターを時速30キロメートル程度に設定して田んぼに周回コースを作って乗ってもらっています。若者の郷を基点にして、雪の積もったそば畑を通り、イチイ並木を回ってくる程度のコースであれば、気持ち良いですよ。または、若者センターの裏の広場ですか。
事務局	イチイ並木の道路は市道なので使用するの難しいです。
A委員	数年前、ペーパンの旧旭川第一中学校を活用するという市の事業で、広い校庭に冬にスノーモービルランドを作ったことがあります。地域で協議会を立ち上げて3年間実施しました。利用料を1人500円に設定して半月間実施したのですが、結構な集客でした。また、かまくらを作っておいて、来客が自分でかまくらの中でジンギスカンを焼いて食べてもらうということもやりました。
B委員	若者センターでも20年ほど前に3年間ほどやっていたのですよ。私もブルドーザーで若者センターの裏の広場や学校の校庭の雪をかき集めて、ユンボで穴を開けて、大きなかまくらを作った経験があります。
座長	市の事業が終わった後、地域の持続的な発展につながりましたか。
A委員	外部人材に頼り、地域住民が主体となり取組みを担って行くというふうにならなかったもので、難しかったです。
座長	私が危惧しているのは、やはり地域の方が担って行かないと地域の活性化はないのです。B委員などの地域の方々の末永い取組みが求められますよね。
B委員	例えば、江丹別市民委員会の役員の半分が、これを地域で継続しようとなったら続けることができます。
座長	事務局の意見はどうですか。
事務局	例えば、先ほどから出ている星を見るといのはいかがでしょうか。大々的にやるのではなく試行として、観光客ではなくまずは市民の方を対象に。
座長	予算的には大丈夫ですか。
事務局	今年度1～2回実施する程度の予算は残っています。 今、星の話が出ましたが、例えば対象を市民と観光客に分けて、それぞれ実施す

	<p>る事も可能かと思われますし、市内のホテルに宿泊した方にオプションツアーで来て頂くこともできると思われます。色々な方向から事務局で検討し、協議会形式ではないかもしれませんが、皆様に個別に案を出ささせていただいて、ご意見をいただくような形を取れると思います。</p>
座長	<p>ゼロから始めるのは大変な仕事なのですが、ただ今日はA委員がおられるので、もし可能であれば、事業に相乗りする方法も取らせていただければ。</p> <p>また、今日は地域の酪農家でチーズ工房も設立されているE委員がいませんが、乳製品なども提供できれば良いですね。</p>
事務局	<p>暖かい牛乳を提供するのであれば、すぐにでもできると思います。人数は少なくても、近所の親子で知っている人が来る程度のところから始めても良いのではないのでしょうか。</p>
座長	<p>わかりました。冬の期間で何ができるかですが、星とテーマで取り組みを行なうことといたします。ところで、津別町は星空ツアーや暗闇ツアーを充実させていましたが、江丹別では星だけで集客できそうですか。</p>
A委員	<p>津別町は、温泉に入るといった目的がベースにあって、夜の開いている時間にどのようなサービスを提供できるかという中で出てきたものなので、目的が違いますよね。これを目的に人が来るかという、来ない確立が高いですね。</p> <p>ですが、温泉を目的に来たけれども、摩周湖というブランドと星空ウオッチングというのが功を奏して、温泉というよりも「摩周湖の星を見る」というツアーが売れたということなのですね。</p>
C委員	<p>ですので、先ほどもお話ししましたが、稼ごうとしている話なのか、この施設を利用してくれる方が増えればよいという話なのか、それによって、取り組み方は違ってくるということです。</p>
座長	<p>この企画はビジネスとして成立しそうですか。</p>
A委員	<p>プログラム商品としては販売するのは難しいと思いますが、ターゲットとテーマが明確であれば違ってきます。</p>
D委員	<p>例えば、市内に宿泊している方を対象に、寒い季節に無料でバスで来ていただいて、樹氷なりを体験しチーズフォンデュを食べて、アンケートを書いて帰っていただくという取り組み試行することも、意味のないことではないのですね。</p>
A委員	<p>ただ、この協議会の目的は、何かプログラムを組むことではなくて、この若者の郷をどう活性化するかということですよ。その中で地域資源を活用した体験型のプログラムが必要だねということになると思います。例えば、テニスコートを1面整備しましたが、現在2校来ている合宿を3校に増やそうですか、ではその合宿誘致のために、単にテニスができるというだけではなくて、他にも強化できるプログラムがあるとか、合宿の休みの時にこういうプログラムを提供できますとか、そういう部分で選択していけばどういう対象でモニターツアーをやれば</p>

	<p>よいかということも見えてくる。プログラム開発ありきでどういう人をターゲットに呼ぶかということになると、ちょっと戦略的な商品販売がしづらい部分があります。</p> <p>ですので、学校向けのプログラムを開発していくのであれば、学校向けのプログラムとして議論すればよいと思いますし、津別町のような森林セラピーということであれば、例えば企業向けのプログラムができないかということですよ。こういう地域資源があるからこういうプログラムができないかというよりも、この施設をどうするかということが根底にありますので、そこに立ち返って話を進めたほうがまとまりやすいのではないのでしょうか。</p>
座長	そうですね。

(3) 地場産品の活用策について

・主な発言は次のとおり。

座長	実は、本日ホエーの活用策についてE委員にお話していただくと考えていたのですが、残念ながら本日はご欠席です。星空観察会の際に何か提供できそうなものはございますか。
B委員	江丹別のソバづくり同好会、麺食いクラブに原料を提供して作ってもらうこともできますよね。
座長	直売所を設けてチーズの販売もできますか。
D委員	人がどのくらいくるかに左右されますが。
事務局	受け入れ能力もあると思います。麺食いクラブの。
B委員	最初からハードルを上げない方がよいのでは。
座長	この機会に地域を知っていただくというのも大事だと思うので、それも念頭に入れつつ企画しましょう。事務局、後何回くらい協議会を開催する予定ですか。
事務局	後2回程度と考えているのですが、座長からお話もありましたが中間報告的なものも取りまとめたいと思っていますので、その内容についても皆様にご説明できればと思っております。もう一つ、イチイ並木の整備の関係ですが、現在作業が行なわれているところです。寄付者の方に対しては心苦しいところもあるのですが、再整備するということですので、どういう場所にしたらよいかということについても、また別の議題として、次回ご意見をいただければと思っています。
座長	美しい並木通りを地域の皆さんは望んでいるけれどもそうなっていないことが問題ですよ。この協議会で決めなければならないのですか。
事務局	ご提言いただければと思っています。また、地場産品の活用についてですが、ここは荒川委員にやっていただかなければ難しい部分ですので、事務局から別途ご相談に伺いたいと思っています。
座長	ビジネスに乗るか乗らないかが大事では。

事務局	若者の郷の活性化という観点で始まっている協議会ですので、先ほどのA委員の話も大切なのかなと。地元でオプションとしてどういうものを提供できるのか、ということを考えることだと思います。観光客を対象にということもそうですが、先ほど副座長の話にもありましたが、ここに来る人を対象にして徐々に知らしめて行くというのも大切では。
座長	しかし、人口は自然減でどんどん減っていくので、地方創生の観点から見ると、それだけでは不十分だという感じはします。地域活性化のために民間の力をいかに引き出して行くか、また地域の方々がそれをどう担って行くかが重要な部分だと思います。
事務局	最終的にそこにつながっていくのですけれども、我々がビジネスの観点から何かをするというよりも、例えばA委員の会社がここでビジネスが成り立つような、そういう人の集め方はできるのかなと。ここは農業が基幹産業ですが、それ以外にも観光という産業が新たに生まれるきっかけに若者の郷がなってくれば、それが地域の活性化に繋がって行けばと思います。
座長	それでは、本日はありがとうございました。